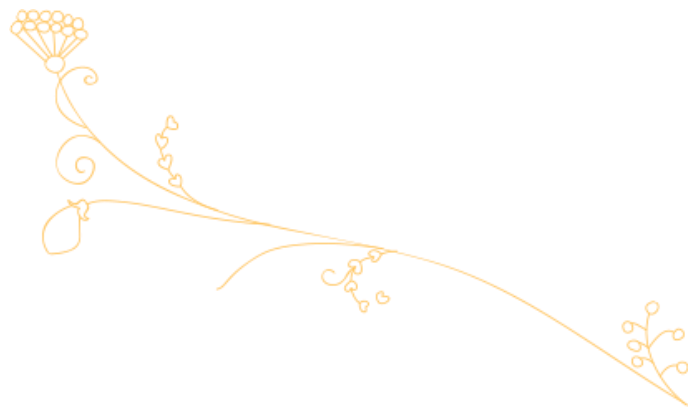




2019年12月期第3四半期 決算説明資料

2019年11月
株式会社セレス（東証第一部：3696）





1. ビジョンとビジネスモデル
2. 連結決算の概要
3. 成長戦略と事業概況
4. APPENDIX



1. ビジョンとビジネスモデル

インターネットマーケティングを通じて 豊かな世界を実現する

セレスは、社会インフラとなったインターネットを通して、様々なマーケティングサービスを提供することにより、豊かな社会生活の実現をはかります。

モバイルから生活を豊かに

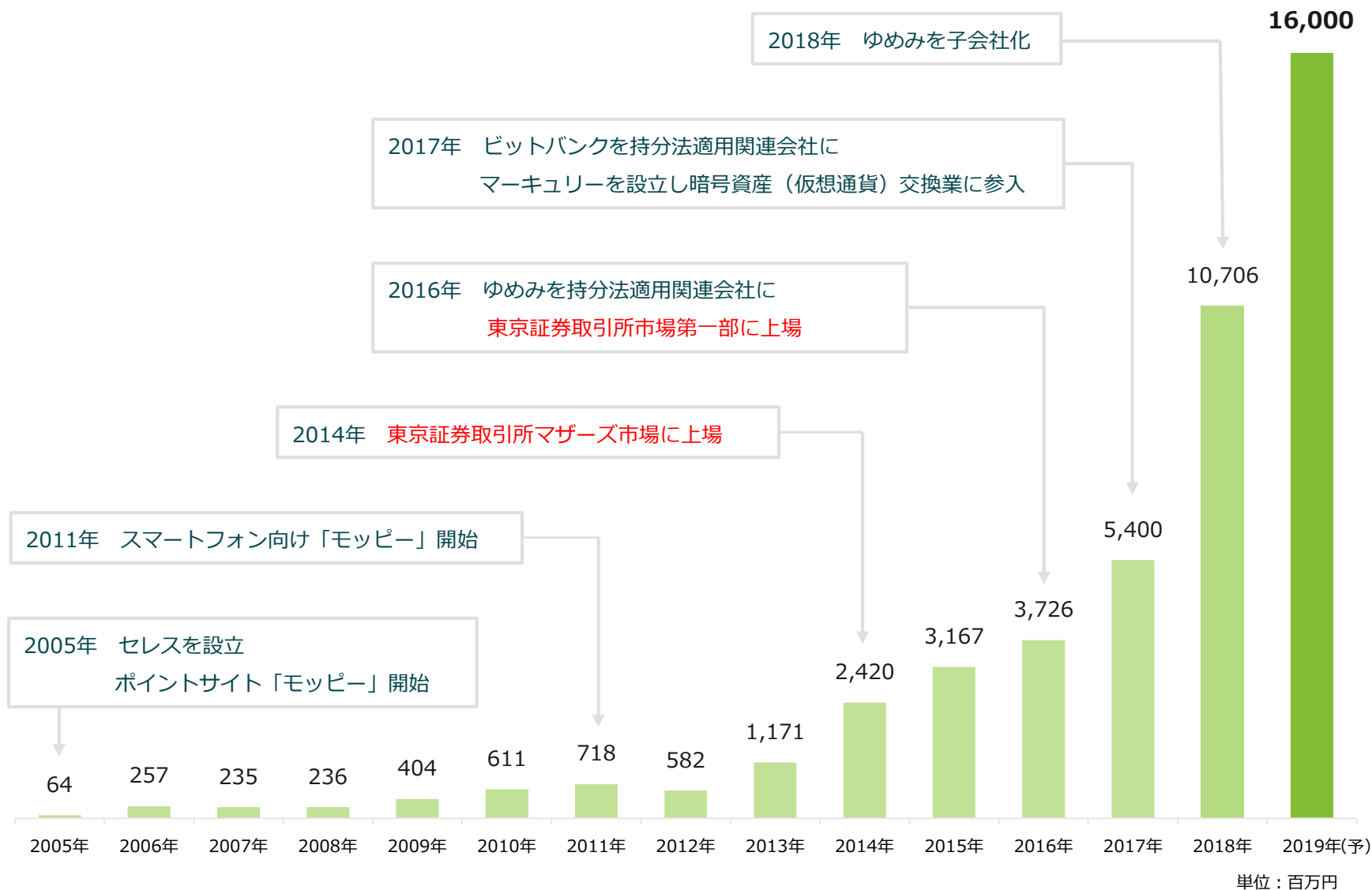


ceres

CERESとはギリシャ神話の「大地の女神」、「五穀豊穡の神」。
CERESはローマ名で、ギリシャ名はDemeter（デメテル）。














会社名	株式会社セレス
設立年月日	2005年1月28日
所在地	東京都世田谷区用賀四丁目10番1号 世田谷ビジネススクエア タワー24F
決算	12月
資本金	18億2,601万円（2019年9月末現在）
代表者	代表取締役社長 都木 聡
役職員数	356名（2019年9月末／臨時雇用者含む）
事業内容	モバイルメディア事業 ・ ポイントメディア事業「モッピー」 ・ コンテンツメディア事業「モッピーバイト」、「チケコミ」、「Oh!Ya」等 フィナンシャルサービス事業 ・ ブロックチェーン事業 ・ 投資育成事業
子会社・関連会社	株式会社マーキュリー、株式会社ゆめみ、株式会社ビットバンク

セレスの沿革

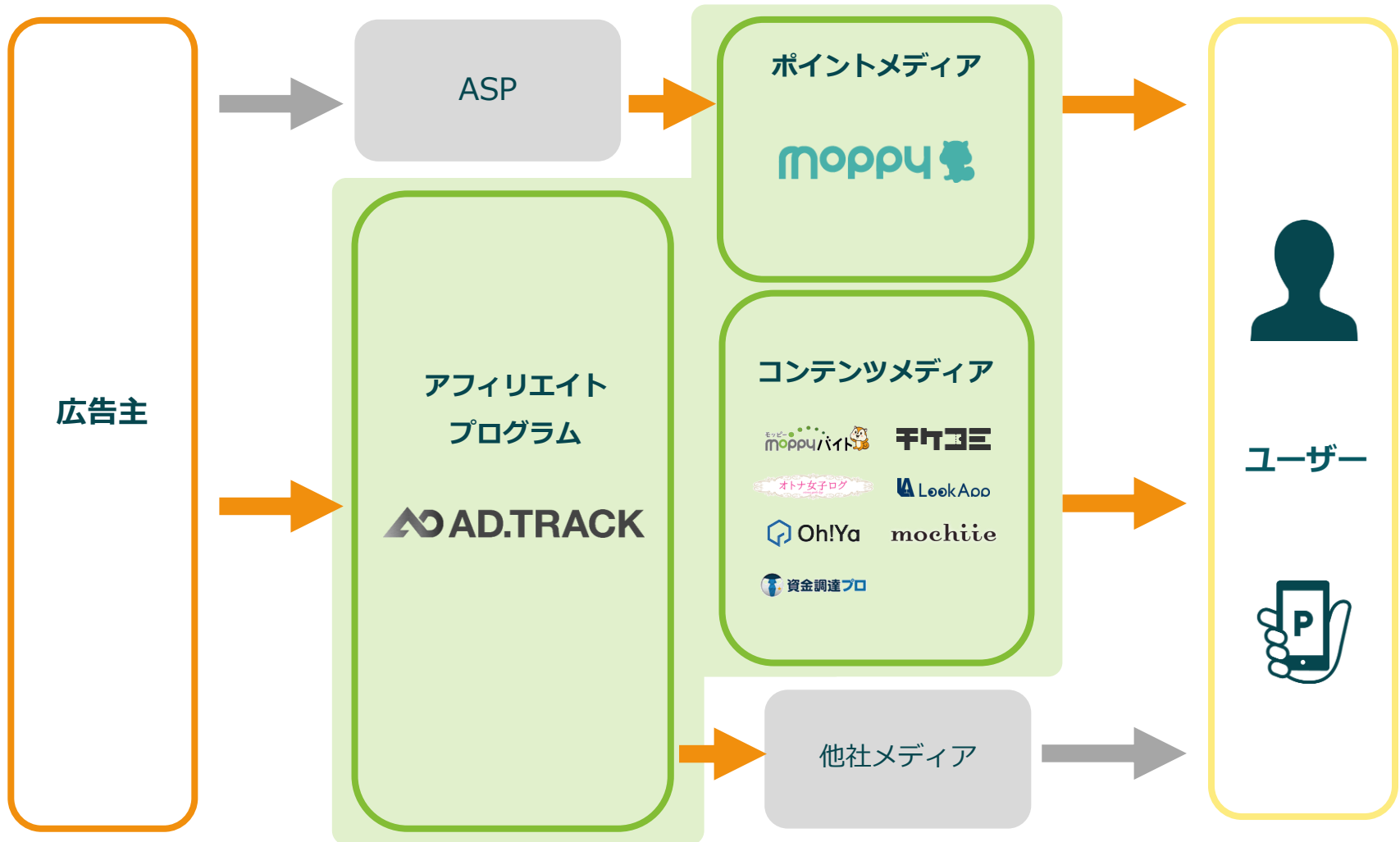


セレス事業領域と主要サービス

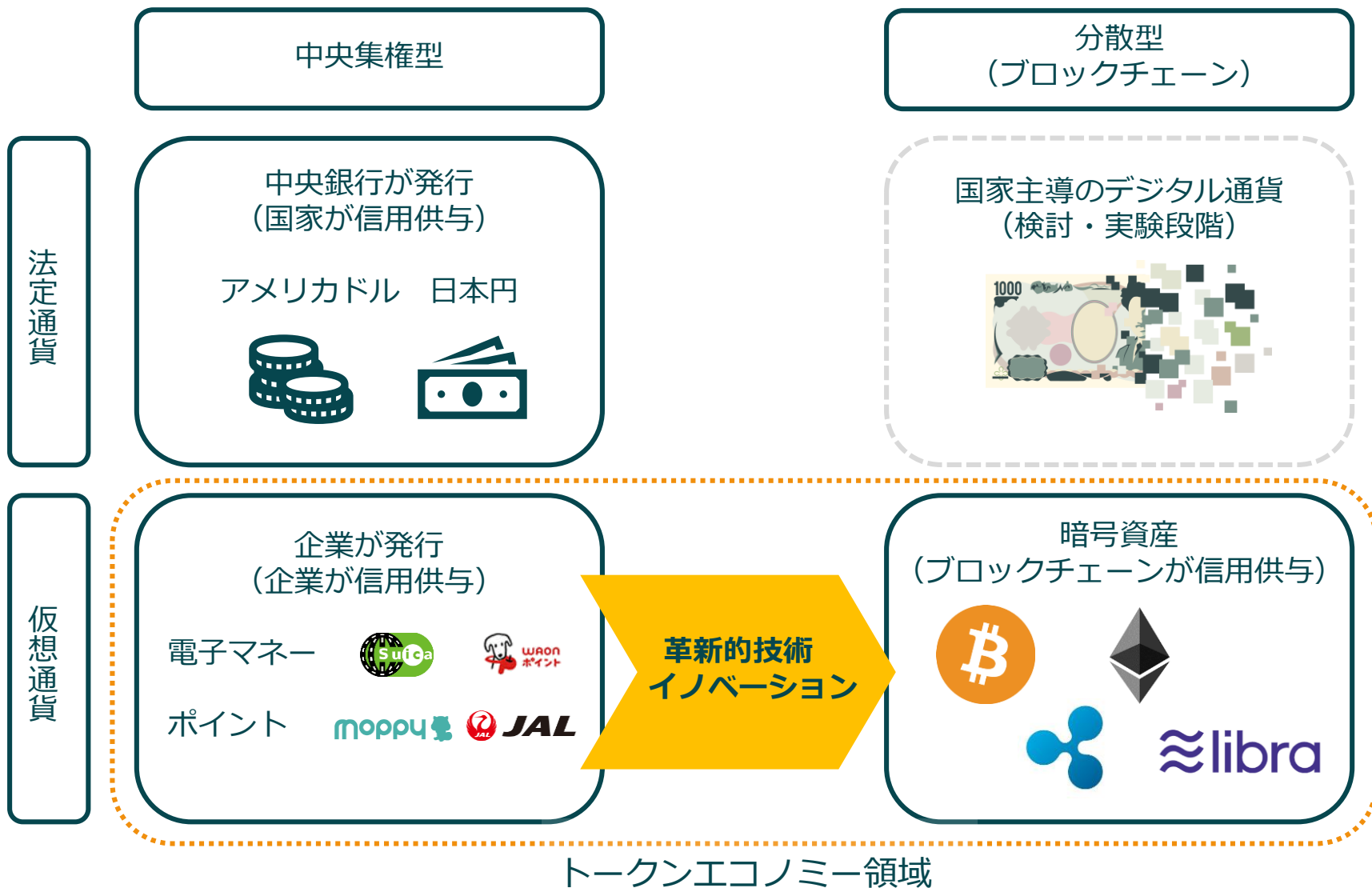
ポイントメディア・コンテンツメディアを中心とした「モバイルサービス」と「フィナンシャルサービス」の2セグメントより構成

	モバイルサービス事業	フィナンシャルサービス事業
ポイントメディア		スマートフォン決済 
アフィリエイトプログラム		
コンテンツメディア	      	
O2O	オムニチャネル 	ブロックチェーン事業  
その他事業		投資育成事業

モバイルサービスの事業領域



トークンエコノミー（ポイントからブロックチェーンへ）





2. 連結決算の概要

2019年12月期第3四半期（累計） 連結決算概要

売上高	12,033百万円	（前年同期比 63.1% 増 ）
営業利益	627百万円	（前年同期比 33.2% 減 ）
経常利益	648百万円	（前年同期比 — ）
EBITDA	862百万円	（前年同期比 122.2% 増 ）

- 連結売上高は、モバイルサービス事業が好調で前期比63.1%の増収達成ポイントとアフィリエイトが大幅増収をけん引。
- 連結営業利益は、コンテンツが計画を下回り、ゆめみ・マーキュリーでの先行投資、投資先の減損処理、前年のCC売却益剥落により33.2%の減益。
- お財布.comのモッピーへの統合により特損225百万円計上。

損益計算書の概要（第3四半期累計）

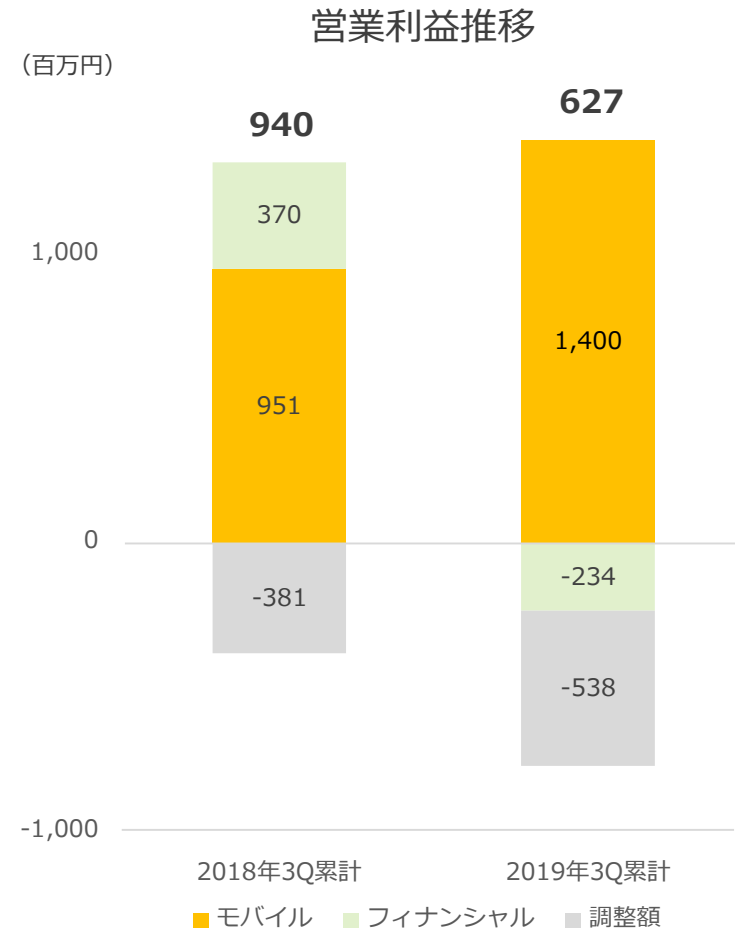
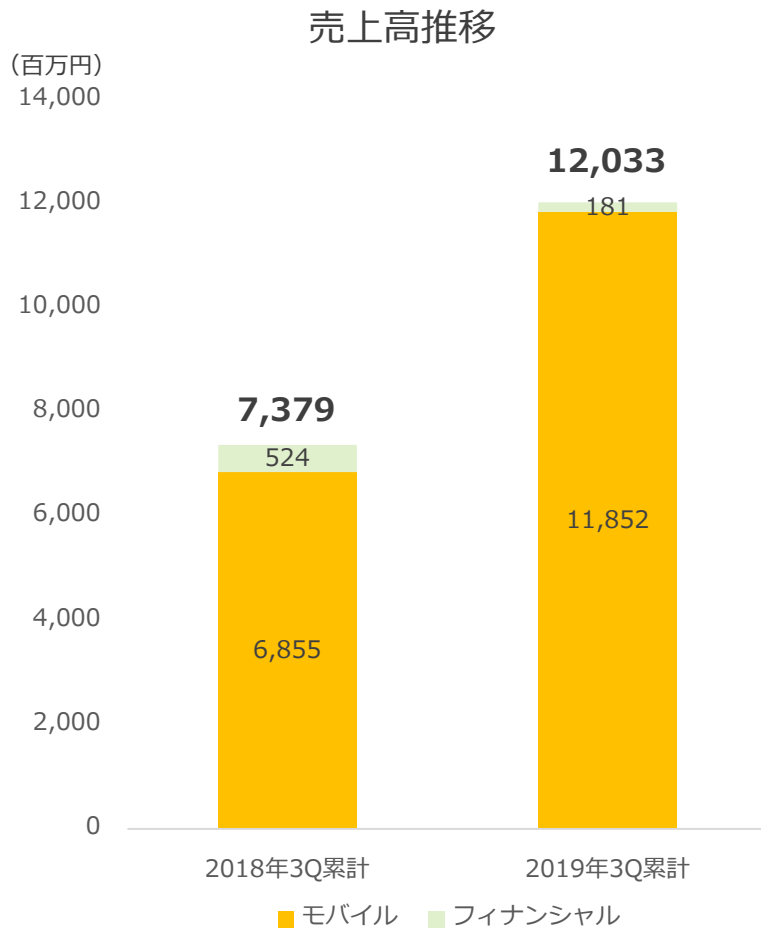
(単位：百万円)	2019年12月期 第3四半期累計	2018年12月期 第3四半期累計（※3）	前年同期比
売上高	12,033 (100.0%)	7,379 (100.0%)	+63.1%
売上総利益	3,848 (32.0%)	3,135 (42.5%)	+22.8%
販売費及び一般管理費	3,221 (26.8%)	2,195 (29.8%)	+46.7%
営業利益	627 (5.2%)	940 (12.7%)	-33.2%
経常利益	648 (5.4%)	-57 (-%)	—
当期純利益（※1）	214 (1.8%)	-151 (-%)	—
EBITDA（※2）	862 (7.2%)	387 (5.3%)	+122.2%

※1：当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2：EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + のれん減損損失

※3：比較情報（前年同期）における各段階利益、EBITDAの各数値は「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」適用後の数値を記載しております。

モバイルは前年同期比72.9%増収・47.3%増益と引き続き好調 フィナンシャルはCC株式の売却無く投資先行により減収減益



損益計算書の概要（第3四半期）

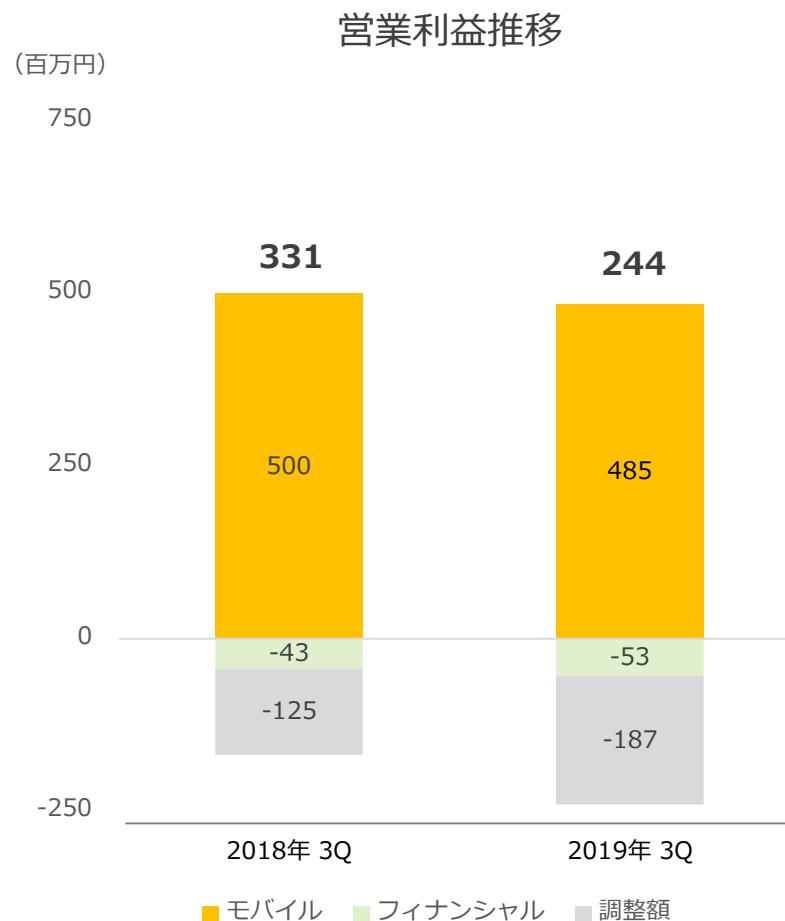
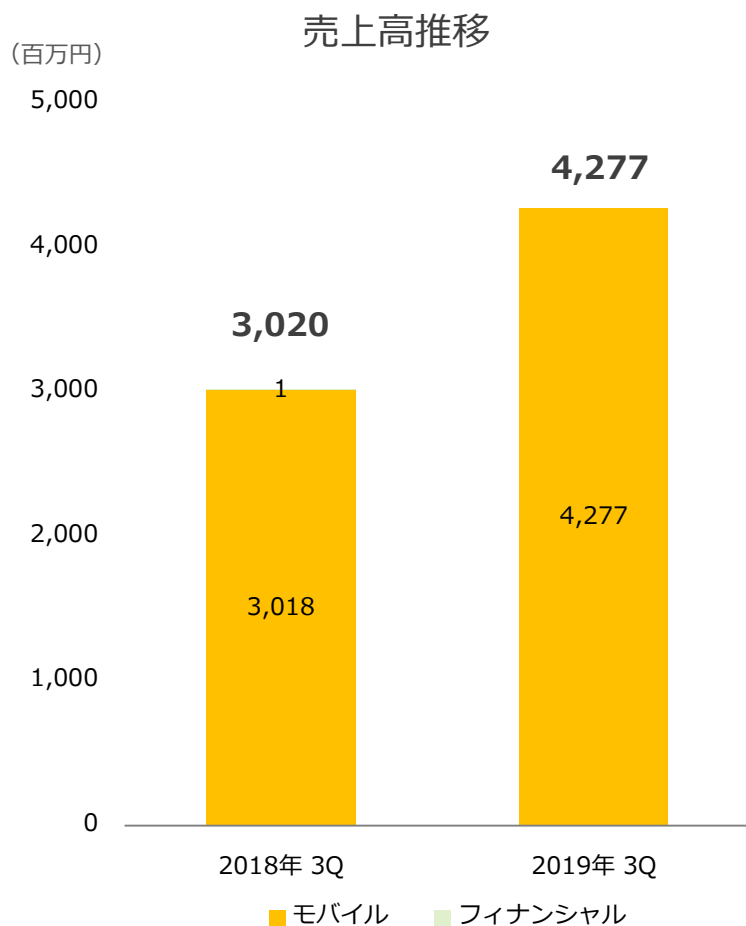
（単位：百万円）	第3四半期 （2019年7-9月）	前年同期（※3） （2018年7-9月）	前年同期比	前四半期 （2019年4-6月）	前四半期比
売上高	4,278 (100.0%)	3,020 (100.0%)	+41.6%	3,694 (100.0%)	+15.8%
売上総利益	1,260 (29.5%)	1,243 (41.2%)	+1.4%	1,208 (32.7%)	+4.3%
販売費及び 一般管理費	1,015 (23.7%)	910 (30.1%)	+11.6%	1,046 (28.3%)	-2.9%
営業利益	244 (5.7%)	331 (11.0%)	-26.2%	162 (4.4%)	+51.1%
経常利益	106 (2.5%)	295 (9.8%)	-64.1%	353 (9.6%)	-69.9%
四半期純利益（※1）	-214 (-%)	302 (10.0%)	—	291 (7.9%)	—
EBITDA（※2）	185 (4.3%)	610 (20.2%)	-69.6%	412 (11.2%)	-55.1%

※1：四半期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2：EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + のれん減損損失

※3：比較情報（前年同期）における各段階利益、EBITDAの各数値は「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」の適用後の数値を記載しております。

モバイルは41.7%増収も、ゆめみ先行投資のため3.0%減益 フィナンシャルはマーキュリーにて投資継続し53百万円赤字



連結業績予想の修正について

(単位：百万円)	2018年12月期 通期実績 (※2)	2019年12月期 期初予想	2019年12月期 修正予想	増減額	増減率
売上高	10,706	15,000	16,000	1,000	6.7%
営業利益	1,221	1,500	650	-850	-56.7%
経常利益	-2	1,400	650	-750	-53.6%
当期純利益 (※1)	-313	780	190	-590	-75.6%
1株当たり純利益 (円 銭)	-28.66	70.76	17.20	—	—

※1：当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2：当期より「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」を適用しており、前期実績（2018年12月期）については遡及適用後の数値を記載しております。遡及適用前の各数値及び当該遡及適用の影響額は以下の通りになります。

前期実績（2018年12月期）

・売上高10,706百万円（遡及適用による影響額なし）

・営業利益1,229百万円（同 - 8百万円） ・経常利益979百万円（同 - 981百万円）

・親会社株主に帰属する当期純利益387百万円（同 - 701百万円） ・1株当たり当期純利益35円40銭



■ 売上高：上方修正

- ・ポイントメディアは会員数、アクティブ率、ARPUのすべてが伸び好調
- ・アフィリエイトプログラムはD2Cクライアントが伸び大幅増収の見通し
- ・コンテンツメディアは広告掲載基準の厳格化及びサーチエンジンのテクノロジー変更が影響し期初計画を下回って推移

■ 営業利益・経常利益：下方修正

- ・利益率の高いコンテンツメディアで計画未達
- ・ゆめみでエンジニアの積極採用による一時的な収益悪化
- ・投資育成事業で投資先の減損処理発生
- ・ブロックチェーン事業にともなう監査報酬等の増加

■ 親会社株主に帰属する当期純利益：下方修正

- ・お財布.comをモッピーへ統合することに伴う減損損失の計上

貸借対照表の概要

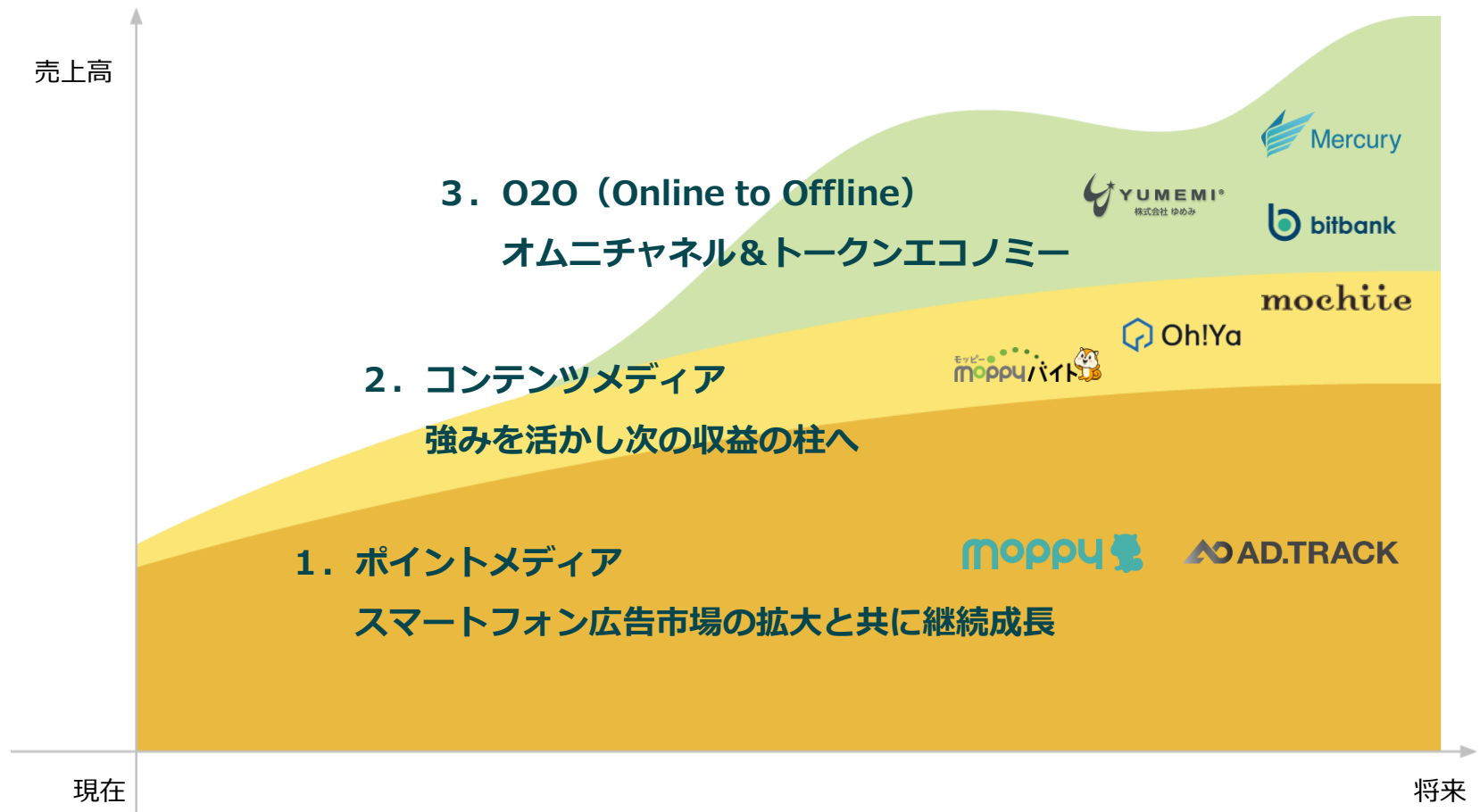
(単位：百万円)		2019年12月期 第3四半期末	2018年12月期 期末 (※)	前年増減額	主な要因
流動資産	7,816 (61.3%)	7,668 (64.3%)	+147	現金及び預金 -471 売掛金 +371 営業投資有価証券 +323	
固定資産	4,930 (38.7%)	4,248 (35.7%)	+681	ビットバンク転換社債 +500	
資産合計	12,746 (100.0%)	11,917 (100.0%)	+829		
流動負債	4,780 (37.5%)	4,161 (34.9%)	+618	ポイント引当金 +314 買掛金 +181	
固定負債	1,346 (10.6%)	1,317 (11.1%)	+28	長期借入金 -239 社債 +220	
負債合計	6,126 (48.1%)	5,479 (46.0%)	+647		
純資産合計	6,619 (51.9%)	6,437 (54.0%)	+181	四半期純利益 +214 配当金 -154	
負債・純資産合計	12,746 (100.0%)	11,917 (100.0%)	+829		

※当期より「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」を適用したことに伴い、2018年12月期の貸借対照表は遡及適用後の金額となっております。



3. 成長戦略と事業概況

「ポイントメディア+a」へ投資を拡大し中長期成長を果たす

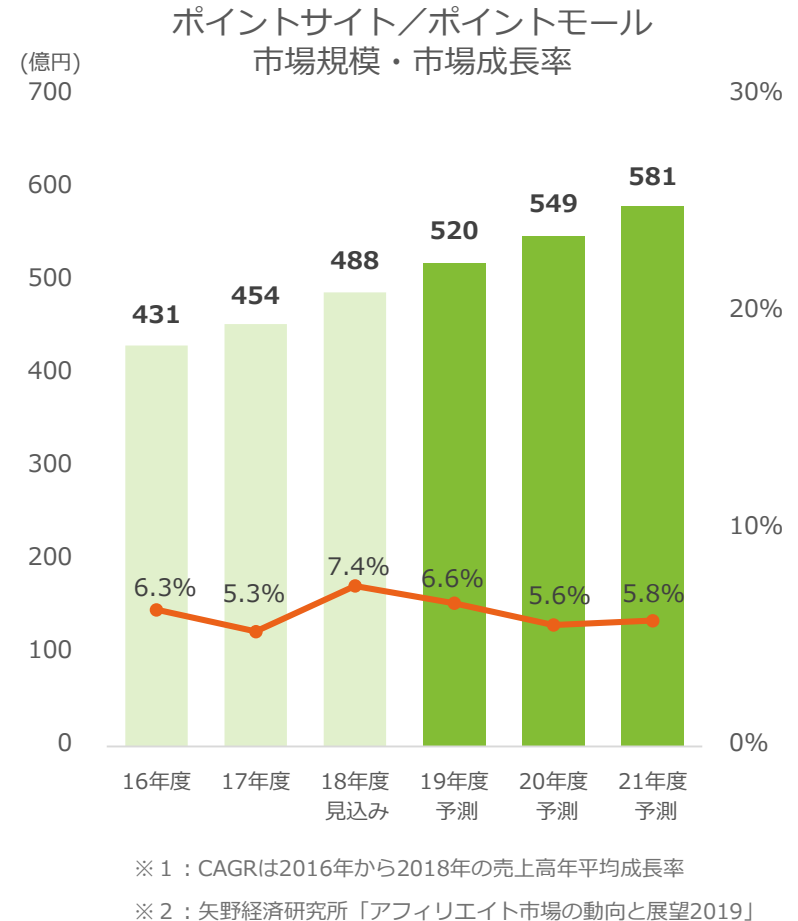




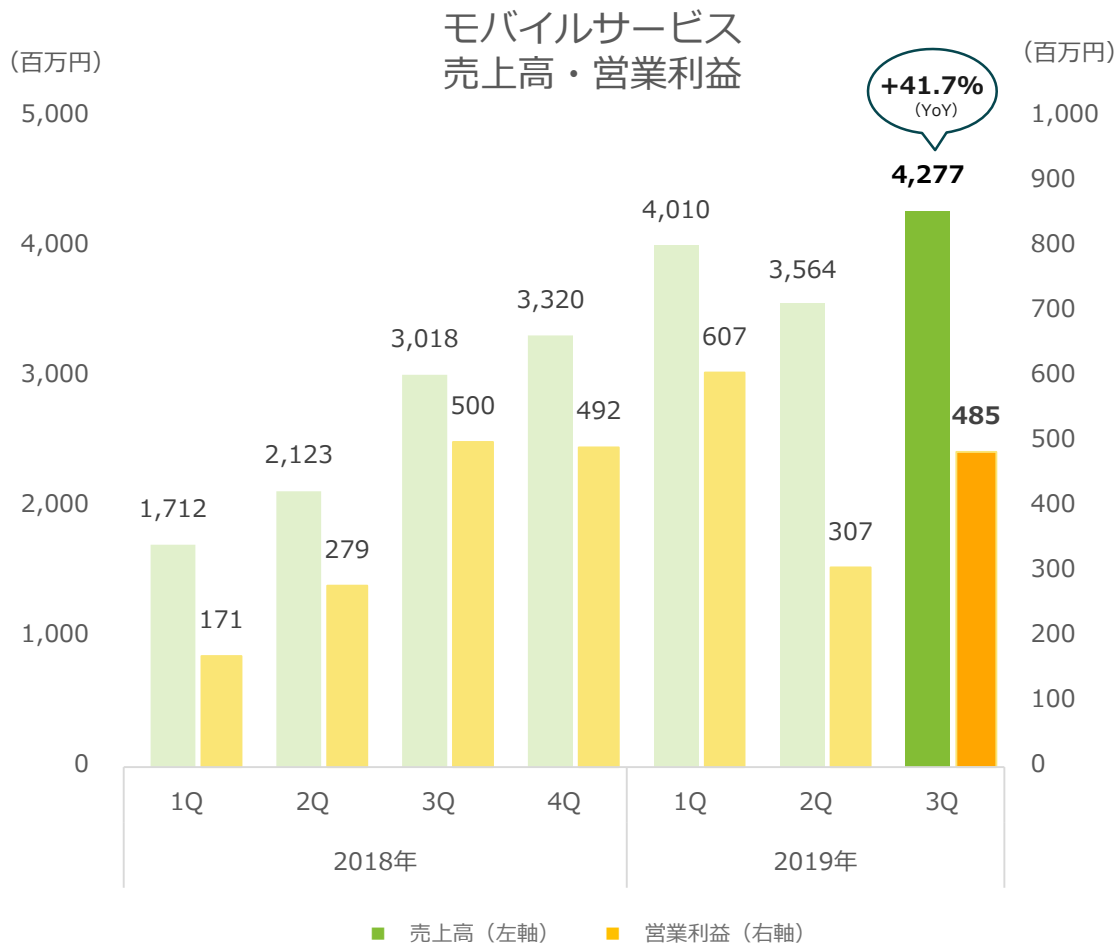
セレス モバイルサービス (ゆめみ除く) CAGR : 55.8%



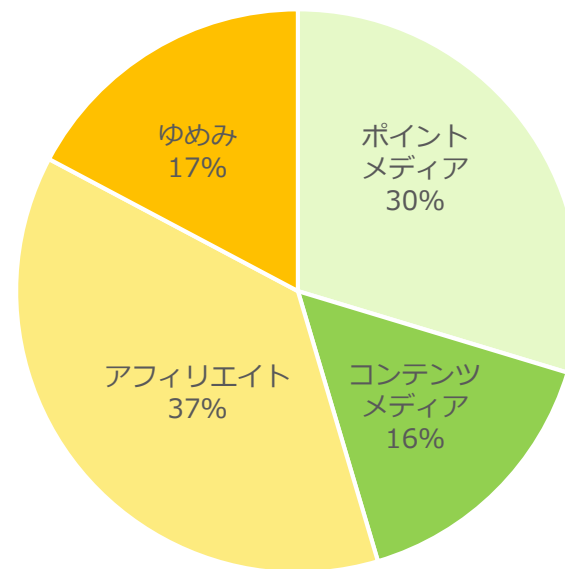
セレス ポイントメディア CAGR : 13.2%



アフィリエイト好調で売上高は前年同期比41.7%増収 コンテンツ減収・ゆめみ投資増で営業利益はYoYで3.1%減益

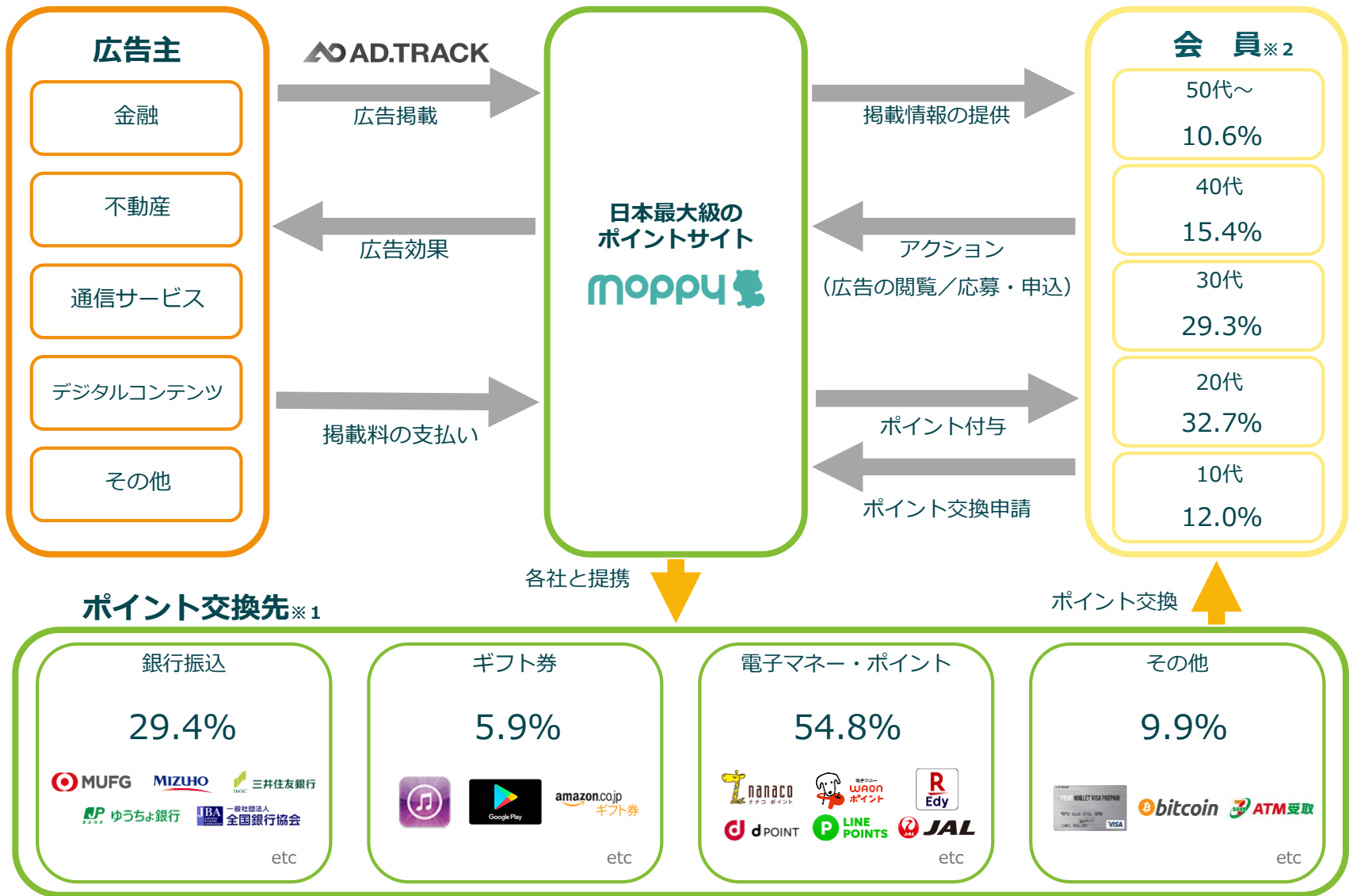


モバイルサービス
3Q売上高構成割合



※：2019年7～9月の売上構成割合

ポイントメディアのビジネスモデル

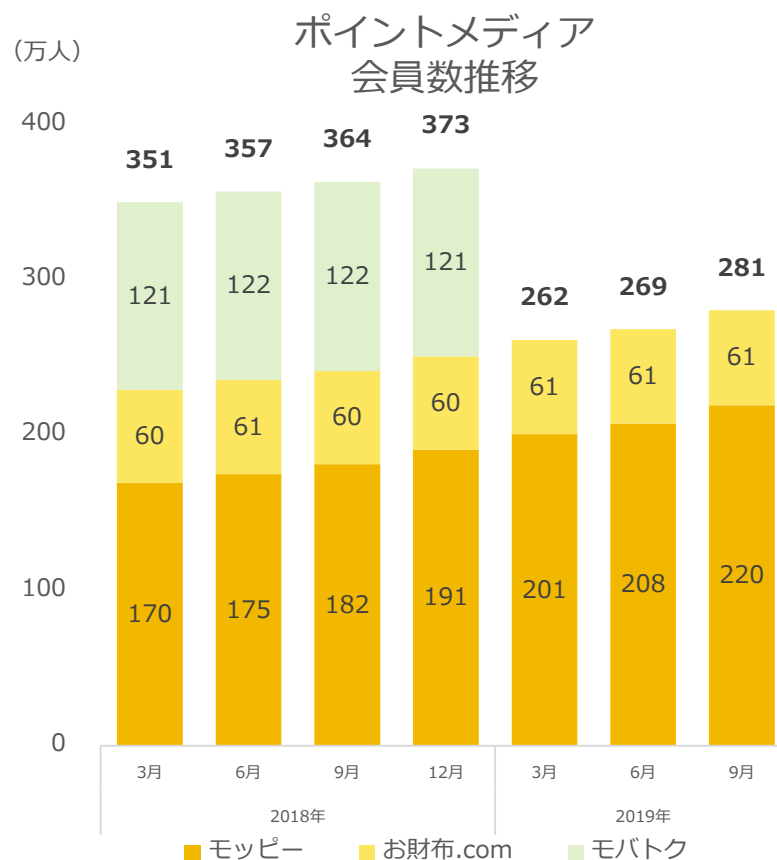
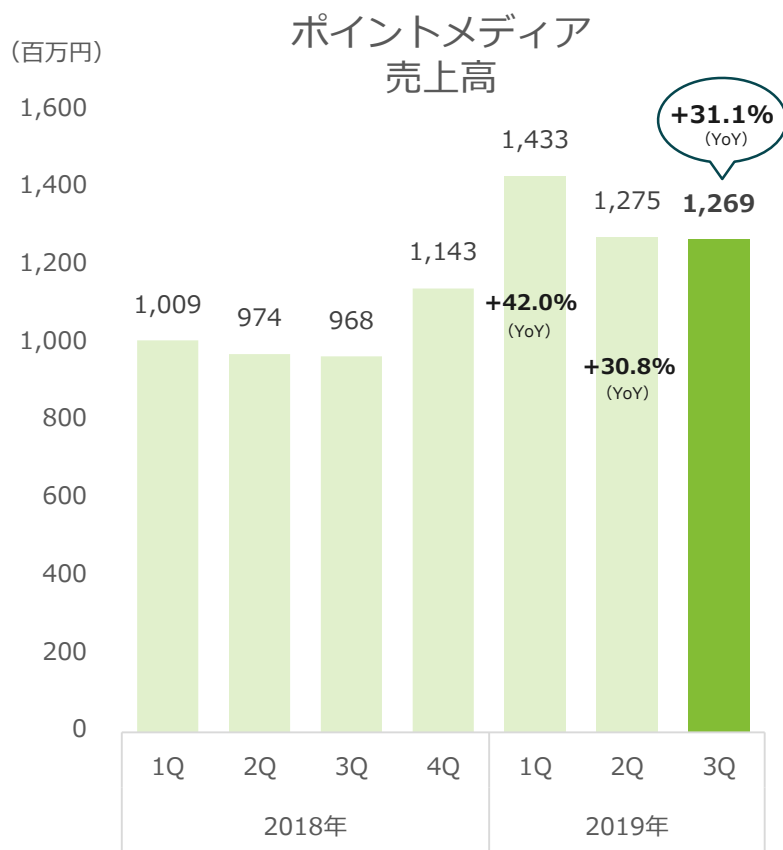


※1：2019年7～9月に発生したポイント交換割合

※2：2019年9月末日時点の割合

ポイントメディアの業績推移

モッピー好調で売上高は前年同期比31.1%増収
モッピー会員は前年比20.9%増でアクティブ率とARPU向上



お財布.comをモッピーへ統合し一層の収益力強化を図る
モッピーのアプリ開発によりスマホ決済対応（2020年中予定）

お財布.comの統合

お財布.comのモッピーへの統合を決定

- ・ リソース最適化による運用効率UP
- ・ 移行による条件アップに伴う収益力強化
- ・ 1.5億円で譲受し累計4.3億の営業CF獲得済



モッピーゲーム

GMOメディアと提携し課金ゲームを投入

- ・ ブラウザゲーム20タイトル提供
- ・ ゲーム内課金による収益でARPU向上狙う

キャッシュレス社会への対応

モッピーのアプリ開発

- ・ ライトユーザー層の拡大
- ・ UI/UXの向上によるアクティブ率アップ
- ・ リアル店舗にてポイントでスマホ決済

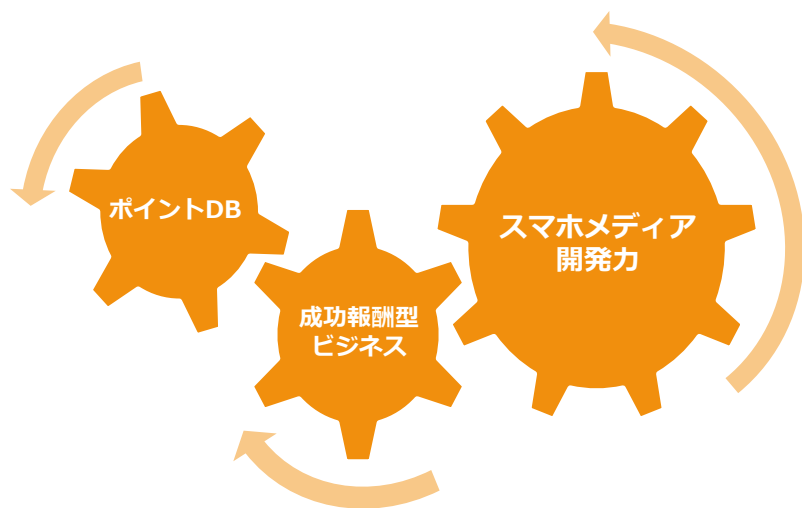


コンテンツメディアについて

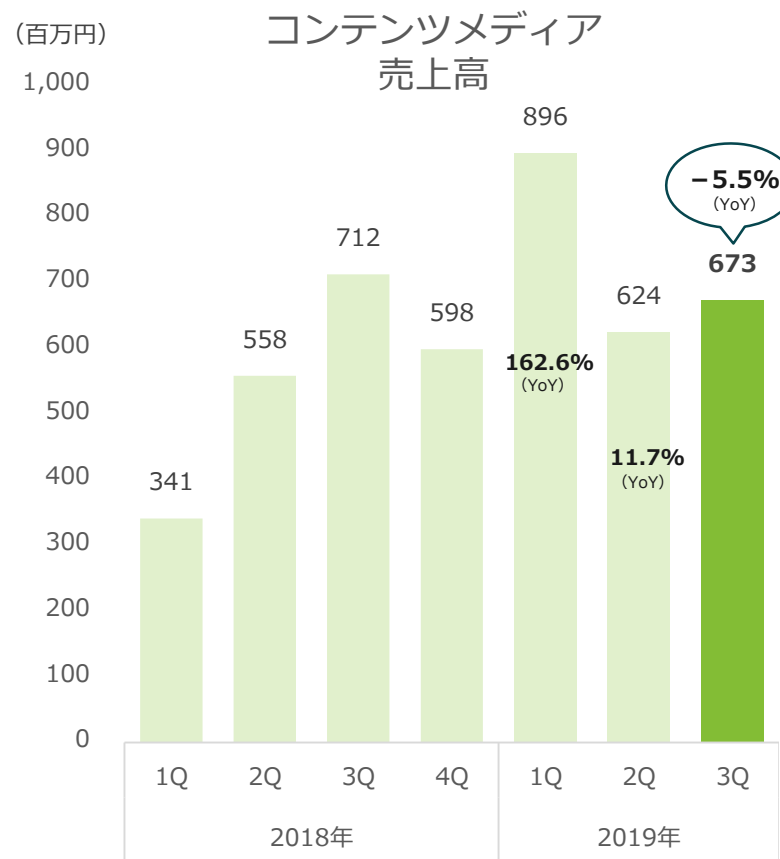
ポイントメディアに次ぐ 収益の柱となるメディアへ投資

セレスの強みである

- ・ポイントユーザー
- ・成功報酬型ビジネスノウハウ
- ・スマホメディアの開発力を活かしメディア開発



広告審査厳格化とSEO悪化により
前年同期比-5.5%減収とブレーキ

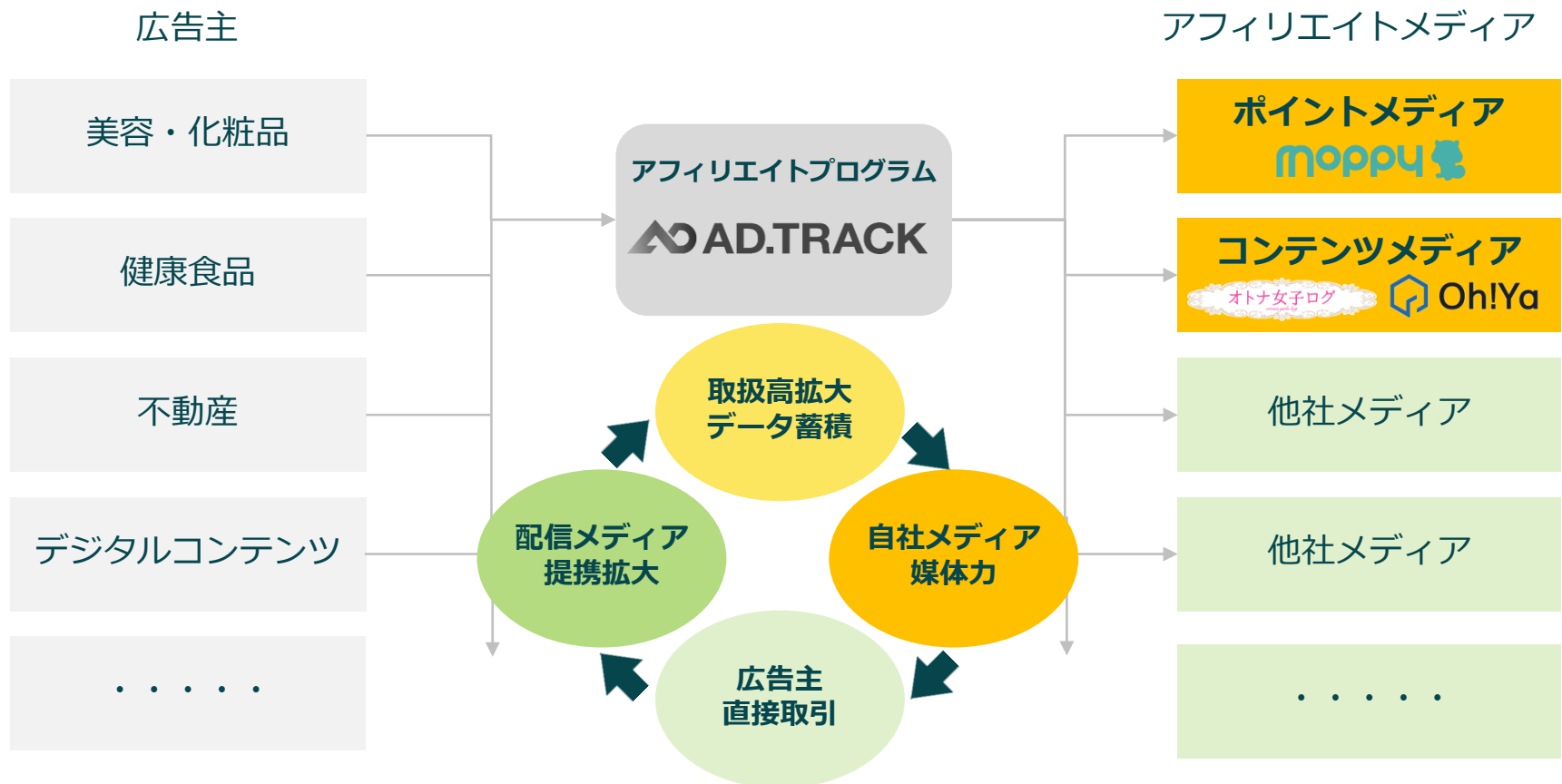


コンテンツメディアの事業戦略

メディア	内容	モデル	主な集客	事業戦略
 モッピー moppuバイト	アルバイト求人サイト	AF	SEO (ロングテール)	採用単価上昇により好調 提携メディアの拡充により応募数拡大
 LookAoo	ゲームアプリ情報サイト	AF	SEM	ゲーム市場頭打ちで出稿意欲横這い サイト改善によるCVRの向上
 千々こめ	フリーミアムコミックサイト	課金・AF	会員	マンガコンテンツの強化により成長 アプリ開発によるユーザー拡大
 オトナ女子ログ	記事広告型メディア	AF	運用型広告	広告審査厳格化によりROAS悪化で減収 アドトラックとの連携推進を強化
 Oh!Ya	投資用不動産情報サイト	AF	モッピー等	営業強化による顧客拡大し底打ち確認 サイト改善によるCVRの向上
 mochie	注文住宅総合情報サイト	AF	モッピー等	有益なコンテンツの拡充 営業強化による顧客拡大
 資金調達プロ	資金調達情報サイト	AF	SEO (コンテンツ)	SEO変動によりトラフィックが上下に変動 コンテンツの強化とSEO対策の充実

アフィリエイトプログラムのビジネスモデル

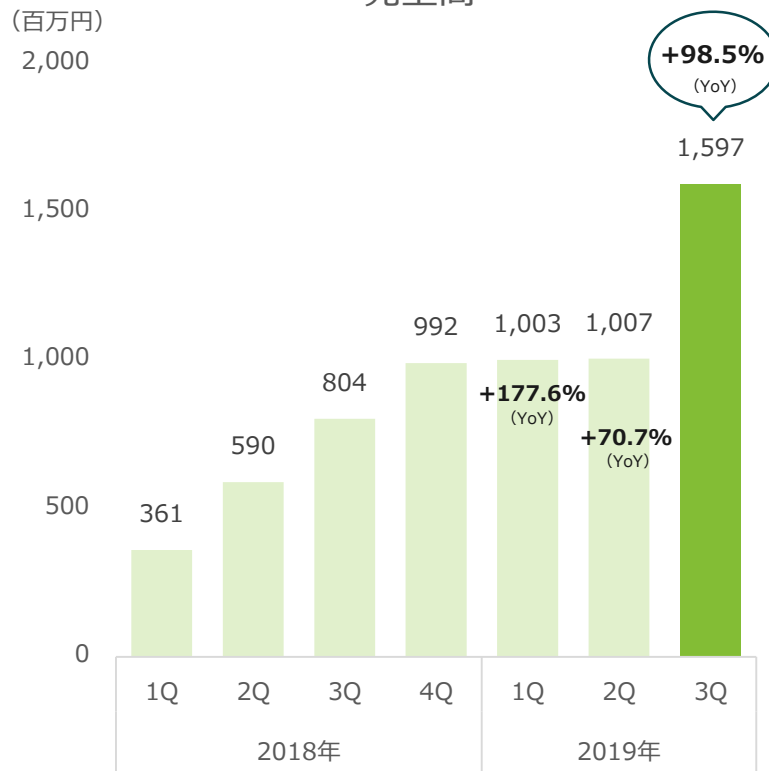
ポイントメディアの媒体力活かし広告主への直接取引から始まり
アフィリエイトプログラムとして広告主・配信メディアを拡大



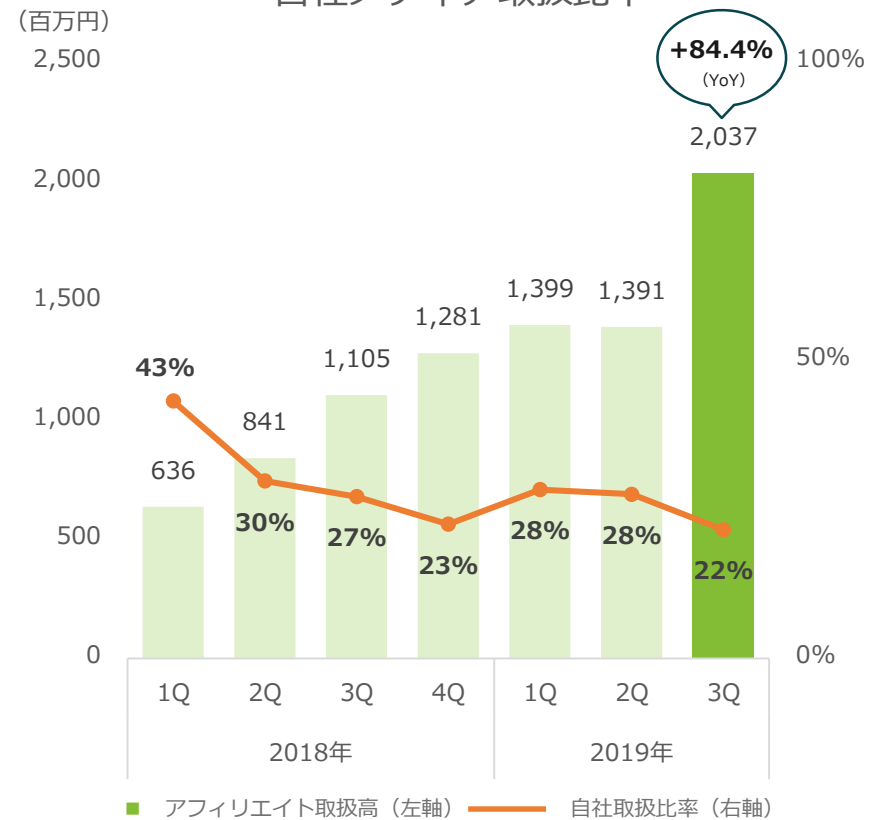
アフィリエイトプログラムの売上高推移

D2Cクライアント拡大でYoY98.5%・QoQ58.5%と大幅成長に成功
 自社メディアを梃子にアフィリエイトプログラム取扱拡大

アフィリエイトプログラム
 売上高



アフィリエイト取扱高・
 自社メディア取扱比率



2000年創業 > 2016年にセレス出資 > 2018年に連結子会社に
モバイルのアプリ開発・UI/UXデザイン・保守運用に強みを持つ

2000

モバイルWeb

モバイル掲示板・キャリア公式サイト制作

2004

モバイルマーケティング

モバイルEC、メルマガエンジンASPの開発運営、
Webアプリケーションの受託開発

2008

CRM

大規模会員データベースの設計、
クーポン配信、Web制作運用

2011

O2O, Gamification

位置情報連動、SNS活用、
スマホアプリ、ゲーミフィケーション

2014

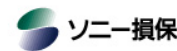
オムニチャネル

大規模システム開発、
デジタル会員証アプリ、サービス運用代行

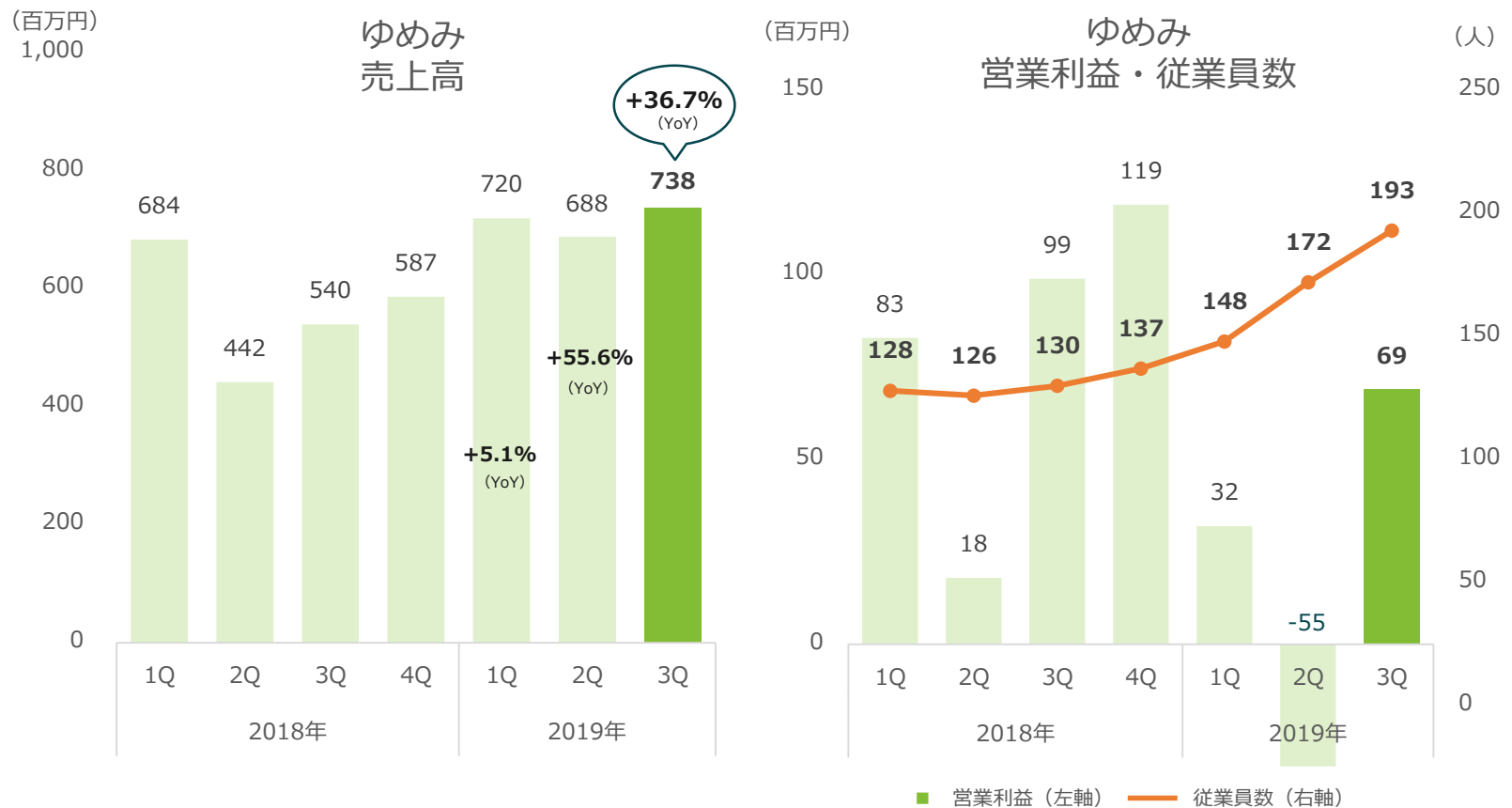
現在

オムニチャネル・インテグレーション、
IoT/デバイス連携アプリ、
デジタル新規事業支援

ゆめみ主要クライアント



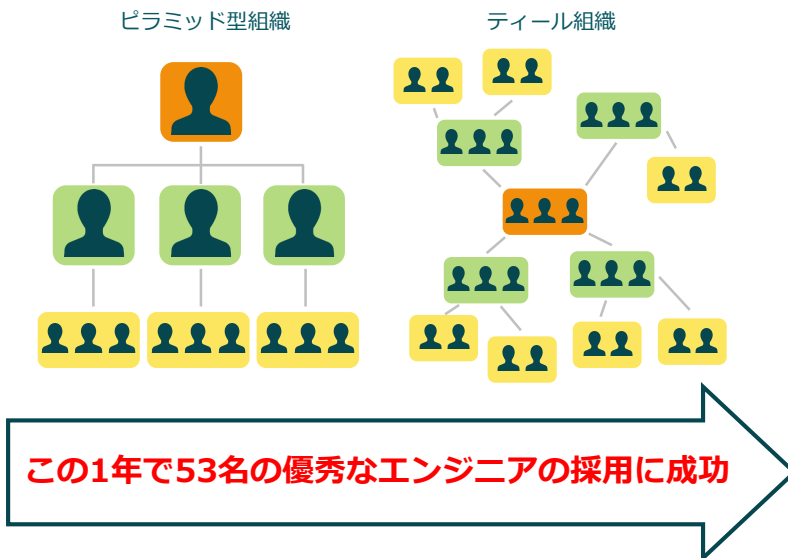
四半期売上高は過去最高更新し前年同期比36.7%増
積極採用に伴うコスト増もエンジニア稼働率向上で四半期黒字に



モバイル開発のトップベンダー目指し持続可能な組織の構築
バンディットアルゴリズムの国内初API化に成功しビジネス化へ

ティール組織への挑戦

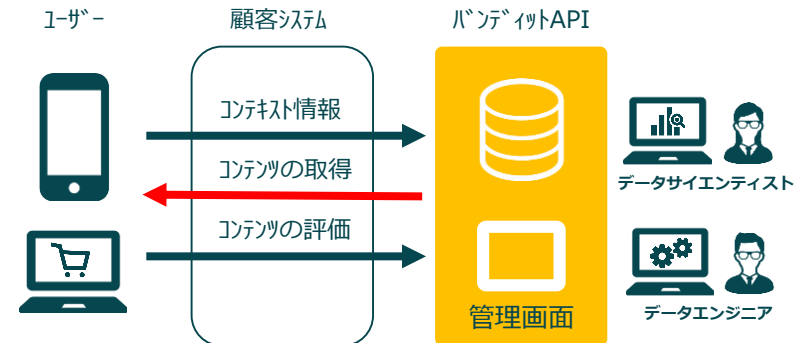
ティール組織とは、一人ひとりに会社の意思決定権を委譲し責任感を持った行動を促す組織体系。それに伴い個々のエンジニアのスキルを高め、全体利益向上を図る。



AIの研究開発

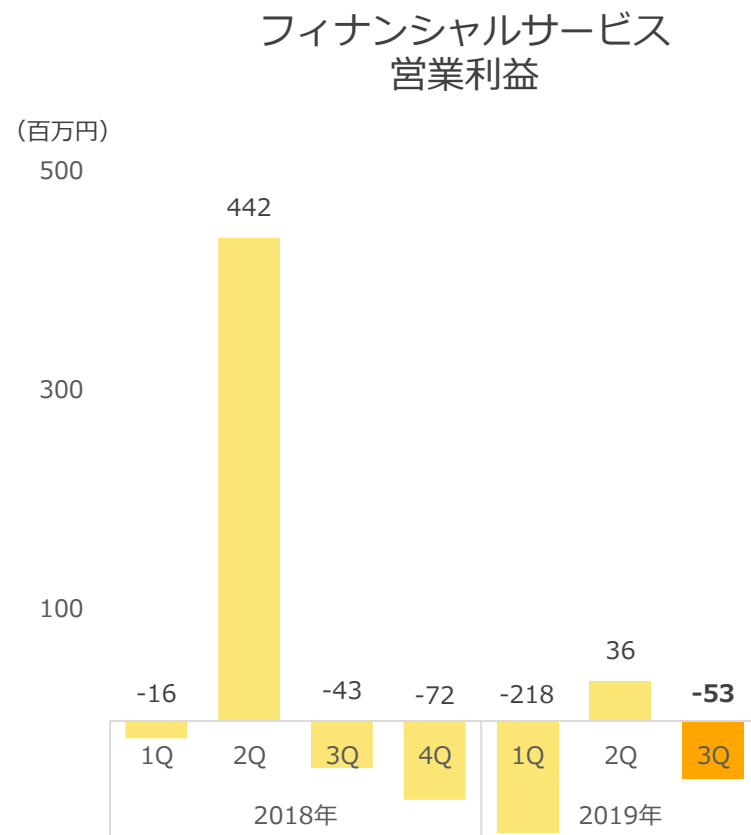
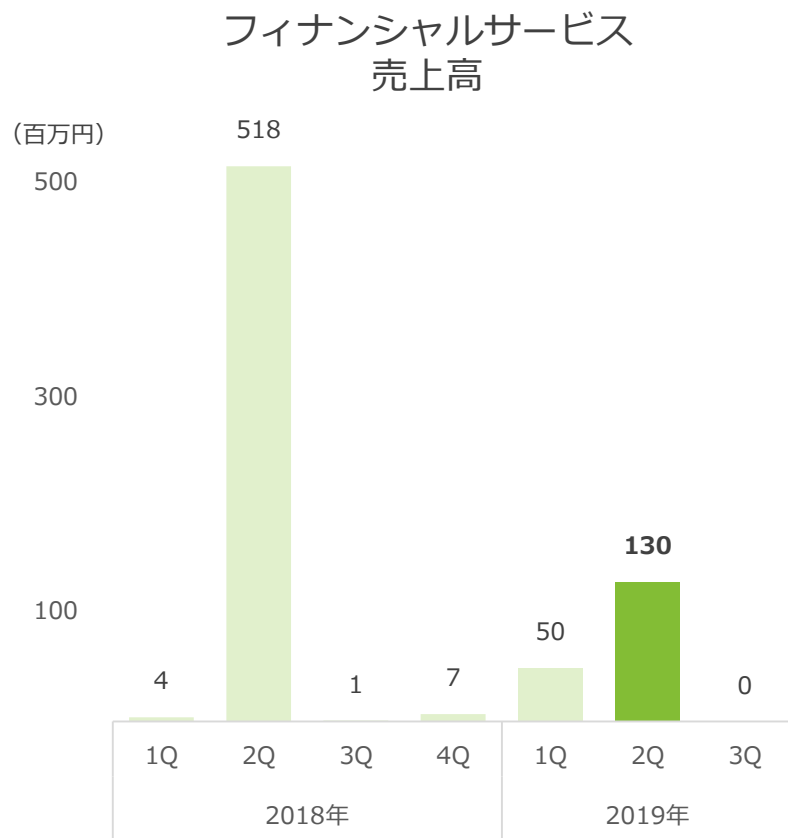
国内初バンディットアルゴリズムをAPI化
学習データの事前準備が不要でユーザー情報ごとの最適化が可能

※バンディットAPI
AIによる効率的かつ効果的な強化学習を通じ、コンテンツの最適化や広告効果の最大化を実現





マーキュリーは暗号資産（仮想通貨）交換業登録に向け継続投資中 投資先の Link-U が2019年7月18日にマザーズ上場



100%子会社のマーキュリーにて暗号資産取引所参入準備を進める
ブロックチェーンベンチャーへオープンイノベーションとして投資

マーキュリーについて

2017年9月に100%子会社として設立

暗号資産交換業の登録審査中

日本仮想通貨交換業協会（JVCEA）に加盟

➤ 事業戦略

暗号資産販売所ビジネスを準備

国内最大規模の取引所であるビットバンクを
カバー先として予定



ブロックチェーン分野での投資

CVCとしてブロックチェーンベンチャーへ
5年間で累計15社の投資実績



(暗号資産交換)



(ブロックチェーン)



(ブロックチェーン)



(ウォレットアプリ)



(B2Bウォレット)



(DAppsブラウザ)

ビットバンクは国内最大規模の暗号資産（仮想通貨）取引所を運営
2018年に業務改善命令受け経営管理体制を整備中

ビットバンクについて

2017年7月よりセレスグループ入り
約27%を出資する持分法適用関連会社
暗号資産交換業登録事業者（関財04号）

- 2018年暗号資産現物取扱高で国内No.1
- 2018年XRP取扱高で世界No.1
- セキュリティ評価国内No.1 ※

※：2018年10月3日 ICORating調べ

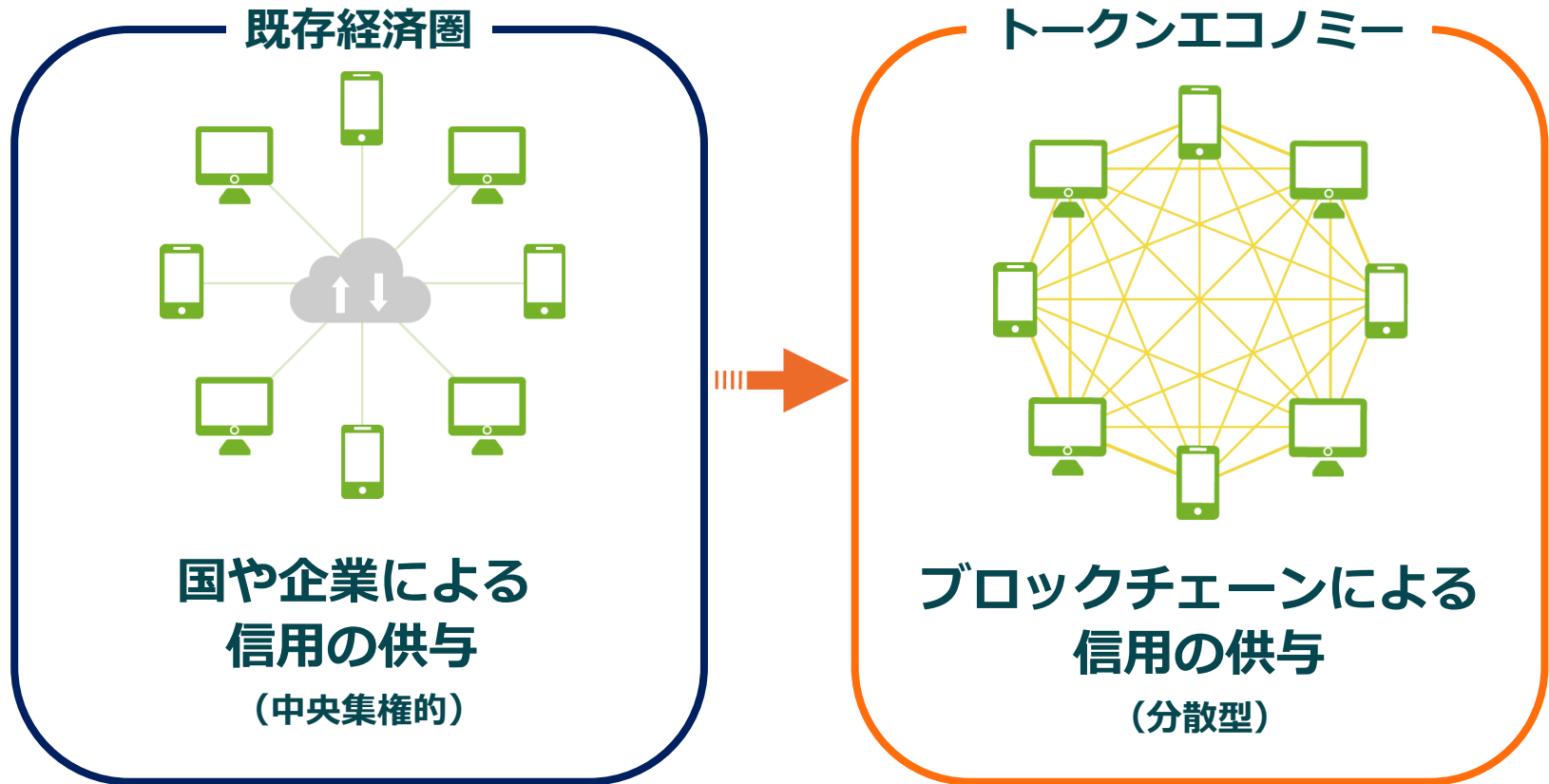
預り資産：**634億円**（2018年12月末時点）
会員数：**35万人**（2019年9月末時点）
現物取扱高：**3,736億円**（2018年12月実績）

国内現物取扱高におけるビットバンク取扱高
（JVCEA公表／2018年12月実績）



金融機関並みの経営管理体制の構築と革新的サービスの提供を図る

ブロックチェーン革命により新たな経済圏が誕生 (トークンエコノミー)



※：トークン (Token) とは、しるしや代用貨幣、商品引換券などと訳される。
暗号資産業界では「暗号資産 = トークン」という意味で使用されている。

ブロックチェーン技術による社会変革の可能性



ブロックチェーン技術による 社会変革の可能性

01 価値の流通・ポイント化 プラットフォームのインフラ化

地域通貨
電子クーポン
ポイントサービス

自治体等が発行する地域通貨を、ブロックチェーン上で流通・管理

市場規模
1兆円

02 権利証明行為の 非中央集権化の実現

土地登記
電子カルテ
各種登録
(出生・婚姻・転居)

土地の物理的現況や権利関係の情報を、ブロックチェーン上で登録・公示・管理

市場規模
1兆円

03 遊休資産ゼロ・ 高効率シェアリングの実現

デジタル
コンテンツ
チケットサービス
C2C
オークション

資産等の利用権移転情報、提供者/利用者の評価情報をブロックチェーン上に記録

市場規模
13兆円

04 オープン・高効率・高信頼な サプライチェーンの実現

小売り
貴金属管理
美術品等
真贋認証

製品の原材料からの製造過程と流通・販売までを、ブロックチェーン上で追跡

市場規模
32兆円

05 プロセス・取引の全自動化・ 効率化の実現

遺言
IoT
電力サービス

契約条件、履行内容、将来発生するプロセス等をブロックチェーン上に記録

市場規模
20兆円

※記載金額は、ブロックチェーン技術が影響を及ぼす可能性のある市場規模

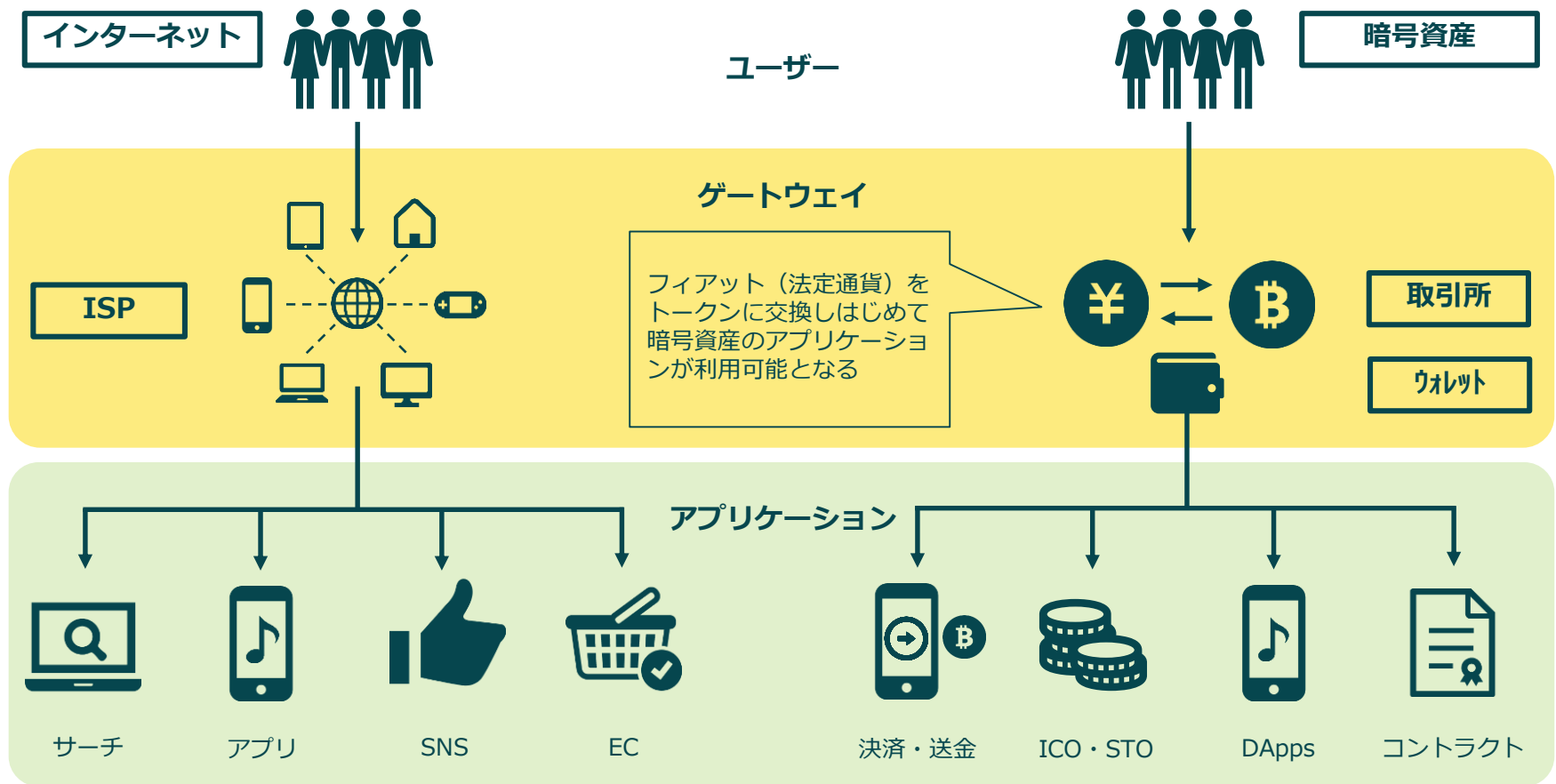
※：経済産業省「ブロックチェーン技術を利用したサービスに関する国内外動向調査」（2016年4月）参照

Copyright © 2019 Ceres Inc. All Rights Reserved.

36

ブロックチェーン事業の進化形態

インターネット = 情報のフラット化 / 暗号資産（仮想通貨） = 価値のフラット化
価値交換のアプリケーションの窓口となるのが暗号資産取引所



ブロックチェーン事業のバリューチェーン

▼主要プレイヤー

▼セレス事業

マイニング

BITMAIN



マーキュリー
PoSマイニング
2017年開始



取引所

coinbase



マーキュリー
交換業申請中
100%子会社



ビットバンク
国内最大規模の取引所
関連会社



Xtheta
登録事業者
2018年出資

coincheck

コインチェック
登録事業者
アーンアウト付

ウォレット



BRD

Bread
アプリウォレット
2016年出資



フレセット
B向けウォレット
2017年出資



スマートアプリ
DAppsブラウザ
2018年出資

DApps/BaaS



bitpay



Sivira
トレーサビリティ
2017年出資



Orb
地域通貨
2015年出資

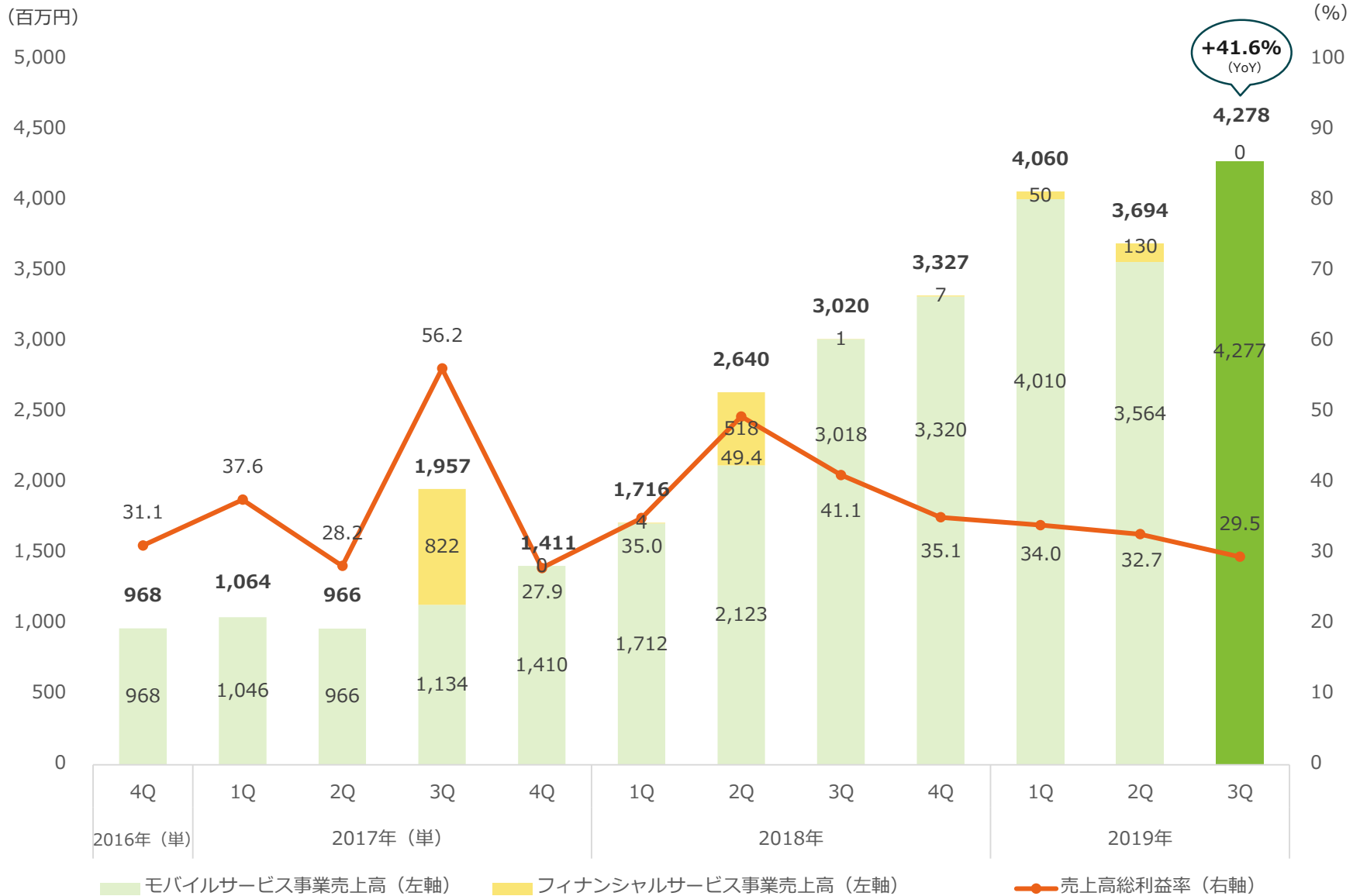


GINKAN
AI活用グルメSNS
2018年出資

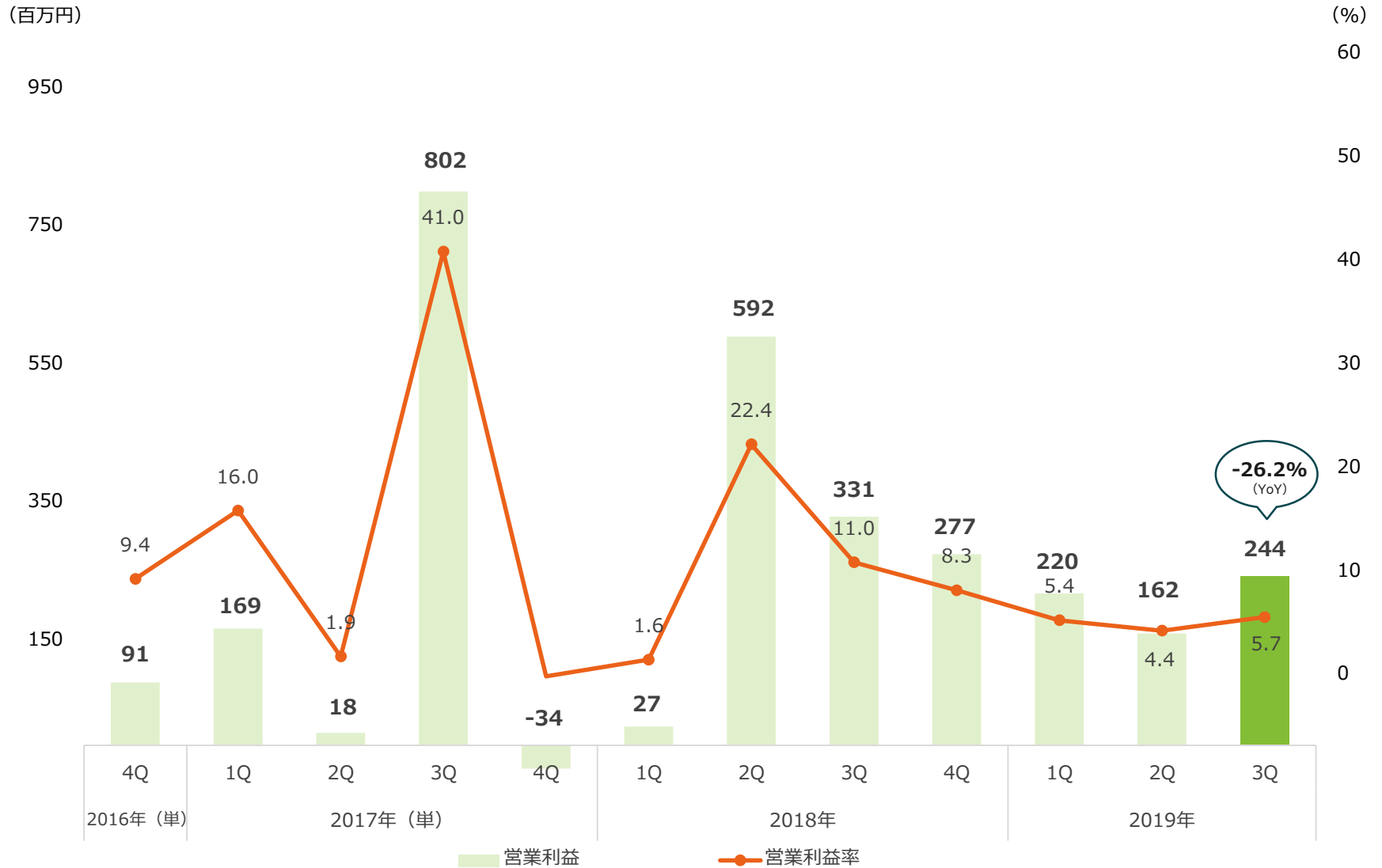


4 . APPENDIX

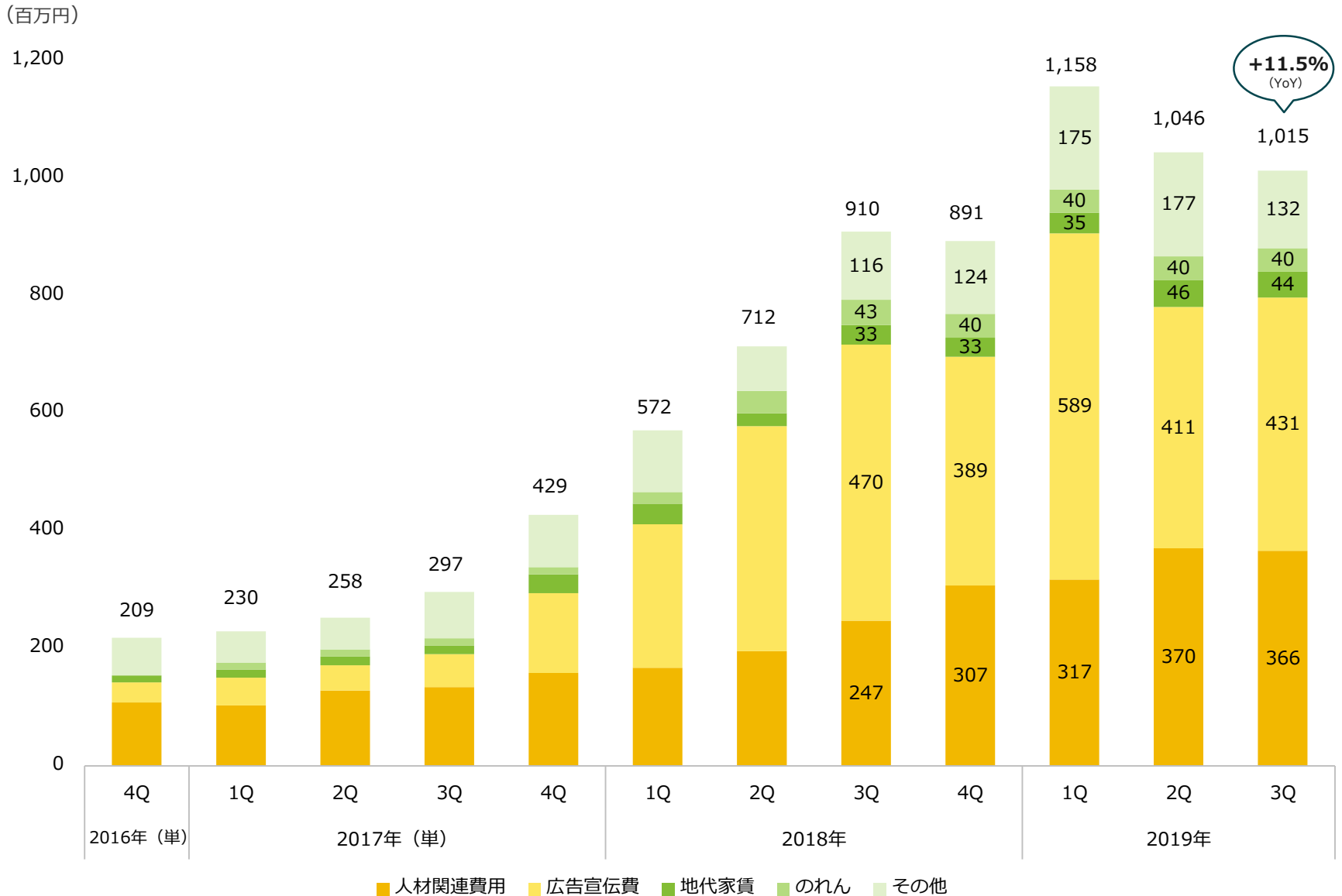
四半期売上高推移



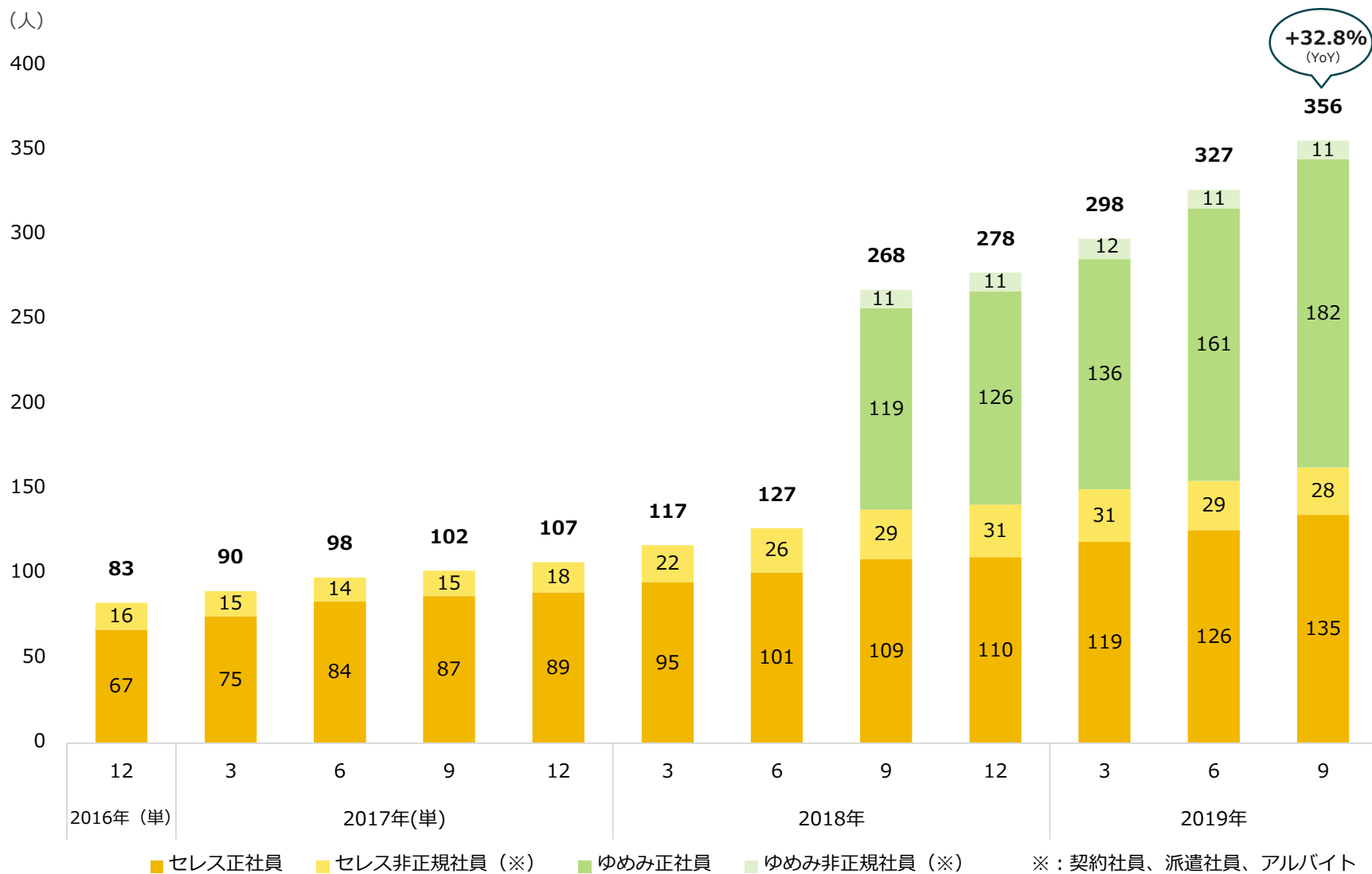
四半期営業利益推移



四半期販売費及び一般管理費推移



従業員数推移





将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。